

第4章 富良野市の観光

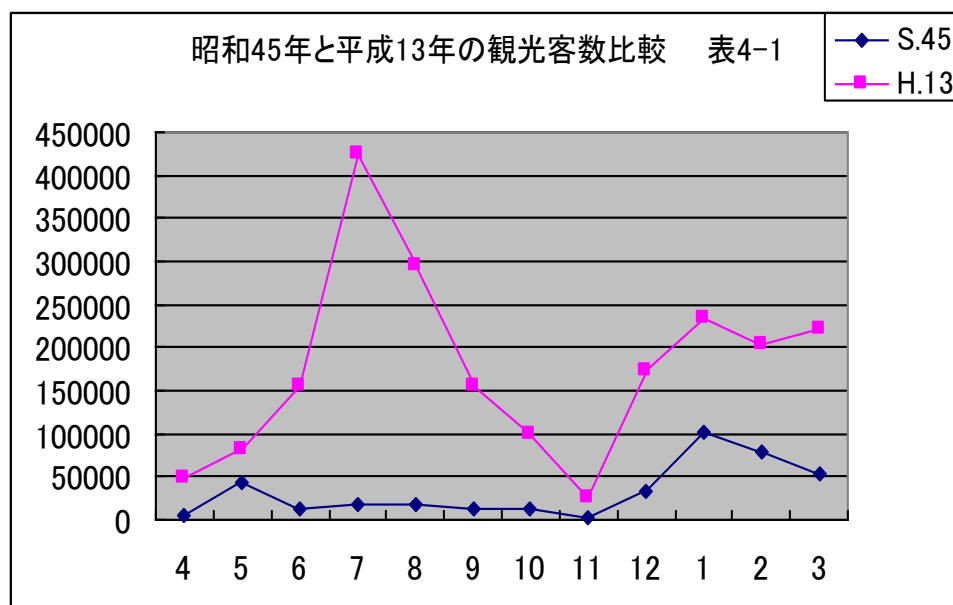
磯野 彩子

4.1 観光地としての富良野市

富良野市は、近年北海道を代表する人気観光エリアとして定着し、例年 7 月下旬頃から 8 月上旬のラベンダーの最盛期ともなると、大勢の観光客でにぎわう道内有数の観光地になった。

かつては、富良野市が山に囲まれていることからスキー・登山客が多数を占める、冬型観光が中心であった。戦前からのラベンダー栽培は、戦後生産量が減少し、ドライフラワーに加工して東京方面に出荷するのみだったが、それから、昭和 51 年に、国鉄のポスターとして全国にラベンダー畑が紹介されてからは、ラベンダーを目当てに観光客が訪れるようになった。そうして、テレビドラマ「北の国から」が、昭和 56 年から放映開始され、放映期間の長さ・広大な自然のロケ地・キャストの人気もあり、富良野の知名度が一気高まった。

このように、昭和 45 年には年間 28 万人だった観光客が、近年では毎年 200 万人以上も訪れるほど、有名な観光地となった。その後、スキー国体・ワールドカップの開催によりスキー客もさらに増加し、夏場のラベンダー見学やゴルフ客の増加などにより通年型観光地に成長した。(表 4-1 参照)



4.2 観光資源

主な観光資源は、「紫の絨毯」と称される、ラベンダー畑などの景観・自然資源である。特に、ラベンダー畑は一面の景色だけではなく、芳香を漂わせ視覚だけではなく嗅覚も楽しませてくれる他の観光地とは少し異なる観光資源である。また、それが人気の秘密でもある。そして、芦別岳・富良野岳はもちろん、富良野中の四季を通して美しい景観は、「日本のスイス」と呼ばれ、自然豊かなことが富良野の特徴である。

ラベンダー以外にも、独特の自然や気候を生かして作り上げた「ワイン・チーズのまち」として富良野でしか味わえない特産物も多く、人気も全国的に上がってきている。そして、「スキーのまち」として、北の峰地区のスキー場には、スキー客が訪れるのはもちろん、夏場はロープウェイで景色や、ゴルフを楽しむことができる。ワールドカップの開催地と言うこともあり今でも多くの大会が開催され、平成 18 年の 3 月には、スノーボードのワールドカップ、高校スキーの全国大会が開催される。

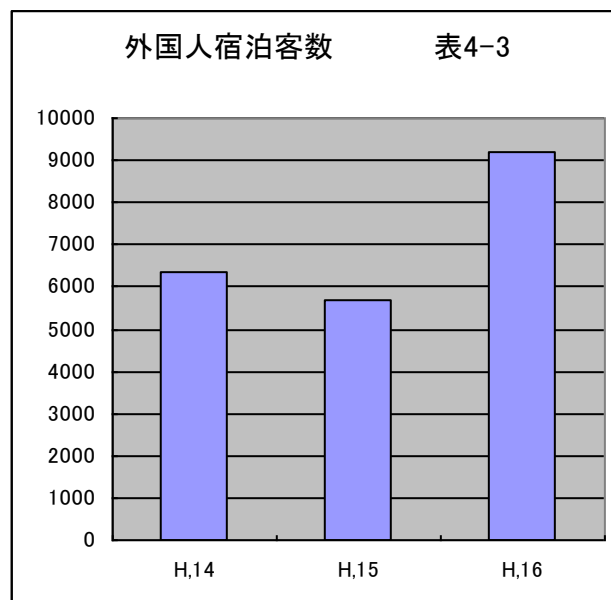
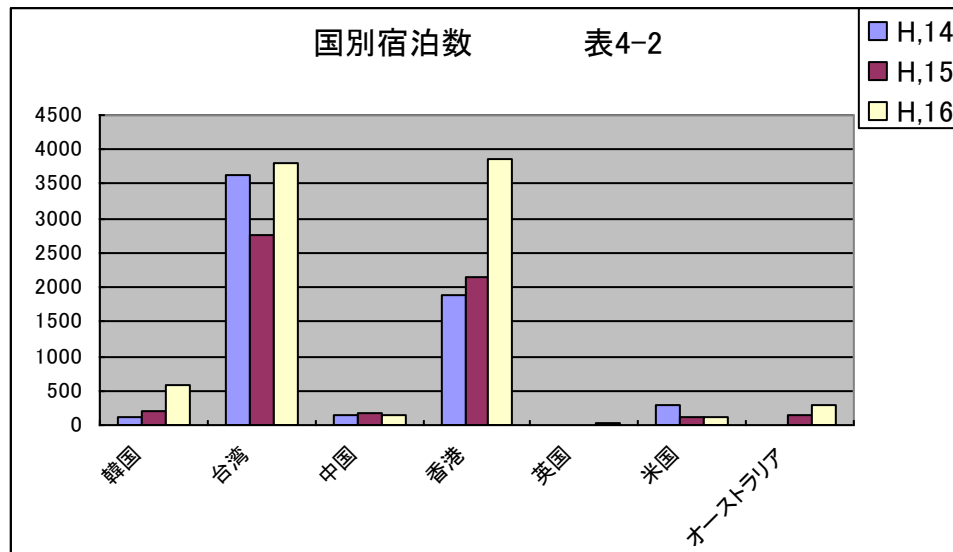
とりわけ、「北の国から」「優しい時間」など、富良野がロケ地と言う文化資源がある。ドラマが放映されてからは、メディアを媒体にし、富良野は全国的な観光地へと変化した。そのため、黒板家の家を順番に見学したりと、ロケ地めぐりツアー盛んとなった。このツアーは季節によって見え方・感じ方が変化するので、一年を通して人気が高く、見学先が無料なことが多いので、費用があまりかからないということも魅力である。そうして、「演劇のまち」としても有名になり、この 2 つのドラマだけではなく「富良野塾」でも、倉本聰監督との関係も非常に濃く、最近では、新富良野プリンスホテル周辺に「優しい時間」で主人公が開いた喫茶店・珈琲「森の時計」がオープンした。

そのほかに、米と豚肉と野菜の生産地であることから、野菜たっぷりのカレーを名物にし、「カレーのまち」にしようと努力している。

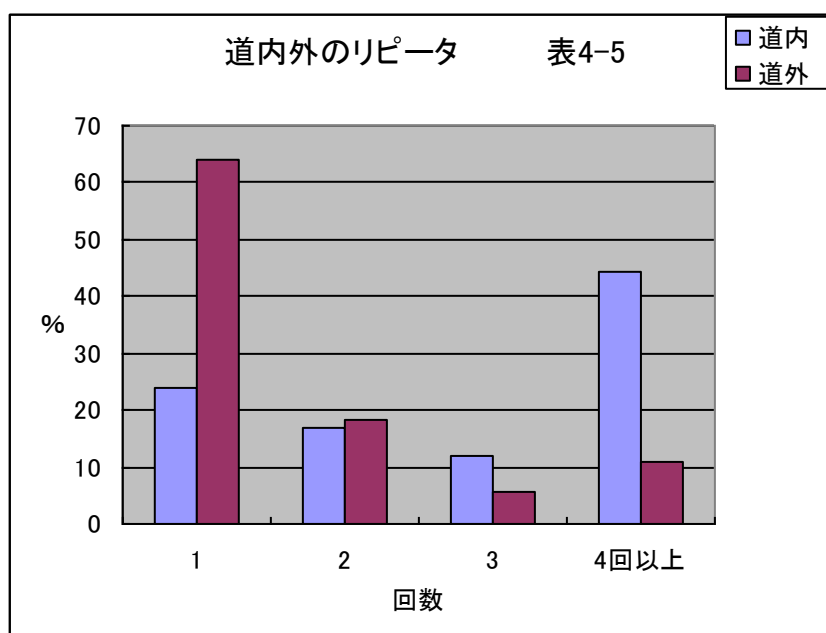
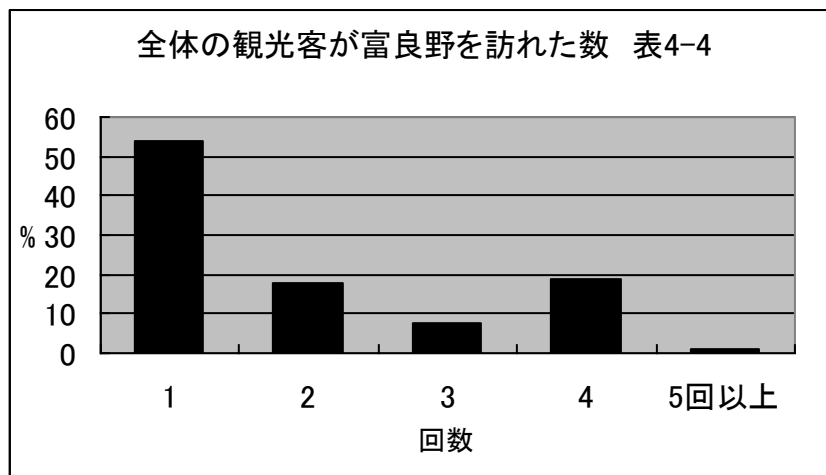
4.3 観光客

観光目的は様々で、多くはラベンダー見学などの自然観賞、冬はスキーなどウィンタースポーツなどがある。

近年外国人観光客は増加しており、特に韓国・台湾・中国・香港などの人々の所得水準の向上から、アジアからの観光客が圧倒的に増加している。その理由は、移動時間の短さや、近いのにも関わらずヨーロッパ並みの風景を手軽に楽しめること、費用が安いこと、プロモーション活動をがんばったからである。去年ごろから、富良野の雪質が良いためスキー客としてのオーストラリア人観光客が増えてきている。しかし、平成 15 年は、SARS のため観光客数が減少している。(表 4-2・4-3 参照)



そして、リピーター率も高く、「再び訪れてみたい」と思う人もとても多い。道内観光客においては、2回以上を訪れたことがある人は、4分の3を占め、4回以上は45%を占める。道外観光客では、はじめて訪れた人たちが、64%。それ以外にも、4回以上のヘビーリピーターが11%も存在する。(表4-4・4-5 参照)



4.4 観光シーズン

富良野は、四季の変化が顕著でいて、それでいて美しいところが魅力である。そのため、どの時期に訪れても構わない。

そのなかでも、初夏のラベンダー観光の時期（7月）は人気である。7月ともなれば、富良野盆地の各所でラベンダー畑が全盛期で、気候も暑すぎず寒すぎず過ごしやすく、ゴルフ、テニスなどのアウトドアスポーツをするにも最適で、まさに観光にぴったりの時期。このように7月に訪れる際は、宿泊は遅くとも5月までに予約をするべきある。

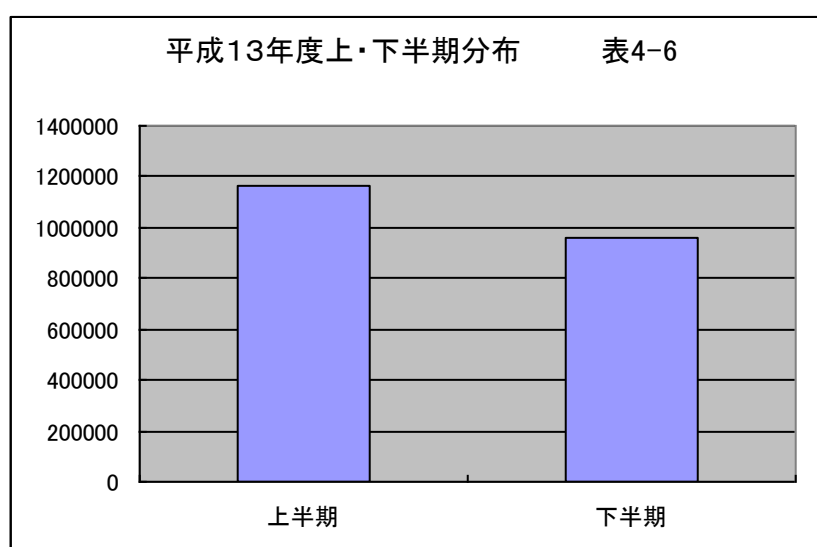
反対に、冬の観光は、名所として、ワールドカップが開催された富良野スキー場が有名

で、そこでスキー・スノーボードを楽しむ観光客も多い。また、「麓郷の森」では、夏とはちがう楽しみが味わえ、冬だからこそその「北の国から」を体感でき、運がよければキタキツネが沢山出現するらしい。

夏・冬の時期に来れない観光客のために、最近では 観光用に早咲・遅咲のラベンダーをそろえており、霜が下りる 10 月末まで楽しめ、紅葉もとても綺麗に見られる。

この様に、4 月・11 月は、連休も少なくラベンダーもまだ開花していないので人出が遠のいてしまうが、冬休みになるとスキー客が押し寄せる。

上半期（4 月～9 月）はラベンダーや北の国から見学を主とし、下半期（10 月～3 月）はスキー目的と、一年を通して観光客が多い。（表 4-1・表 4-6 参）



4.5 観光交通網

富良野への交通手段には様々な方法があり、本州・海外の観光客は、飛行機で空港を利用し、空港からはバスで富良野までやってくる。利用者の多い新千歳空港から、富良野間の移動時間は約 4 時間程度である。

道内の観光客は、バス・自家用車で、国道 237 号経由する方法、または、JR 富良野線を利用して訪れるなど様々な方法がある。そして、ピーク時は、観光客の増加に伴い自家用車の乗り入れ、観光バスなどの大型車が増加する。もともと、一車線の道路が多く、道幅が狭く曲がりくねっている道也多にもかかわらず、さらに路上駐車により道路をより狭くしてしまうため渋滞が起きてしまう。それが、富良野市民の生活に影響を与えていたが、2000 年頃から押しボタン式の信号機の設置や迂回路の利用により、だいぶ緩和された。

富良野市内の移動には、タクシーやレンタカー・レンタルバイク・レンタルサイクルが富良野駅前充実している。バスターミナルも隣接されているので富良野駅からの交通は非常に便利である。

4.6 富良野観光の課題

① 中心市街地のイメージ、駅前における富良野らしさの不足

多くの観光客が富良野駅を降り、駅前広場に出たとき、北の国から資料館、ラベンダーショップを除くと、狭い駅前広場、大きな特徴のない街並みであることから、郊外に行くまで「富良野らしい」という印象を持てない状況である。そのため、駅周辺では、観光客の姿は少ない。

なぜなら、富良野駅付近は、道幅が狭いわりにタクシーや自家用車の乗降も多く、交通環境がよろしくない。その上、公共駐車場の車の収容数も少ないため、路上駐車などにより状況がもっと悪化している。

② 観光の目玉となるものが多いわりに、まとまっていない。

富良野市にはへそ祭り等のイベント、ドラマ「北の国から」、ワイン、チーズとまちのテーマをもつ要素がたくさんある。しかし、市街地の街並みは、通りや公共施設等にテーマ性がなく場所もばらばらの状況である。

③ 従業員の過労働

ピーク時の5月から8月は、観光客だけではなく、修学旅行生も同時に訪れるので一日中多忙な状況に陥りやすいので、従業員の負担が大きくなる。アルバイトを雇って負担を軽減しているが、外国人観光客など客層の変化により対応が困難になってきている。

④ 国際化の遅れ

近年圧倒的に増加している海外からの観光客に対応するために、中国語などを利用する機会が増えたため言語の社員教育がまだ行き届いていないのが現状である。最近では、外国語教室を開講するなど改善の努力もしているが、英語圏の観光客の増加しているので習得の負担が大きい。

4.7 富良野の資料（人気スポット・行事）

①人気スポット

「ふらのワイン工場」

富良野の特産品の代表格の一つ「ふらのワイン」。ワイン製造工程の見学に加え、試飲もできる。

「ふらのジャム園」

人気の無添加の手づくりジャムは、富良野で採れるハスカップ、はまなす、山ぶどう、きいちご・・・と何十種類もある。ふらのジャム園の奥には「麓郷展望台」があり、麓郷地区が見渡せる。アンパンマンショップも好評。

「ニングルテラス」

倉本聰氏プロデュースの「森のショッピングロード」。ログキャビンのクラフトショップと喫茶店、クラフト工房などがあるこの森は「ニングルが暮らす集落」と見立てた演出。「北の国から'98時代」では「森のろうそく屋」が登場した。

「富良野スキー場」

北海道の中央、十勝・大雪山連峰の雄大な眺望のもと、良質の雪とバリエーション豊かなコースが魅力で、過去 10 回の FIS ワールドカップ大会も開催された。スノーボードも全コース滑走可能である。

「花人街道」

美瑛町から占冠村までつづく、国道 237 号線のこと、沿線に花畑がある。また、月ごとに鑑賞花がかわる。富良野の豊かな自然を感じることができる。

「五郎の石の家」

ドラマ「北の国から」「'89 帰郷」の中で黒板五郎が建てた石の家。富良野岳の過去の火山活動のため、畑から大量に出る石を使ったエコロジカルな家。

「拾って来た家-やがて町」

ドラマ「北の国から」「2002 遺言」の中で、黒板五郎が廃材を集めて作った家。大量廃棄社会への警鐘が含まれており、その不思議な風貌が人気を集めてる。

「麓郷の森」

1981 年当時の「北の国から」ロケで使われた丸太小屋を中心に、森の写真館や彩の大地館。森の喫茶室などが森の中に点在し、最も歴史ある「北の国から」のスポットです。

「北の国から資料館」

人気ドラマ「北の国から」の貴重な資料を、歴史を感じさせる大きな倉庫を改装して展示している。思い出のあのシーンが、鮮やかによみがえる。

②富良野市の年間行事

05 年 5 月～06 年 2 月の富良野の行事	
5 月	やまべさくら祭り(中旬)
6 月	富良野西岳山開き(上旬) 芦別岳・富良野岳山開き
7 月	北海イカダ下り In 空知川(24 日) 北海へそ祭り(28・29 日)
8 月	
9 月	北海道ミーティング(3・4 日)
	富良野地域特産物フェア(4 日) ふらのワインぶどう祭り(18 日)
10 月	
11 月	
12 月	富良野寒々村(下旬)
06 年 1 月	
2 月	ふらのスキー祭り(4・5 日) わいわい祭り(11 日) やまべゆきんこ祭り(12 日) スノーフェスティバル(下旬)

参考文献・HP 等

富良野市ホームページ

<http://www.city.furano.hokkaido.jp/>

ふらの観光協会

<http://www.furano-kankou.com/top.html>

北海道経済部観光のくにつくり推進室のホームページ

<http://www.pref.hokkaido.jp/keizai/kz-ksnko/>

山村 順次 1995 『新観光地理学』 大明堂

佐藤 誠 1990 『リゾート列島』 岩波書店

富良野市 1981 『富良野市まちづくり計画』

川村 弥生 『地域に根ざした観光に関する考察～富良野地域を事例として』